

# 東海能楽研究会 年報

## 尾張藩の謡初

― 年頭の「謡」関連の諸行事とともに ―

飯塚 恵理人

横井時文の『張州年中行事鈔』正月三日に「金城御謡初」として「自酉刻 御臣下より新御番小頭に至て召出之御盃賜る。二千石以上島台献上。御大夫及御縁側に候し、是を諷ふ。所謂東北、高砂、芭蕉、小謡等也。終御大夫拝領の鬨斗目を着し、弓矢の立合を舞。」とある。《芭蕉》は祝言の曲とは考えがたいのでその点是不審だが、謡初は年頭の晴の儀式だった。

大倉流大鼓方大倉三忠師所蔵の『寛文三(一六六三) 卯年ヨリ安永十(一七八一) 丑年迄此帳二有 御家御触書留 諸事願事控 被仰渡事留』に尾張藩の謡初と、年始の老中御招請の節の式・上使御囃子に関する記事がある。この記事の後は元禄六(一六九三) 酉年五月十一日の「宰相様(泰心院様ナリ) 御家督御祝儀御老中招請御能」という三代藩主綱誠家督の記事となるので、おそらく元禄前後の謡初の記事として記されたと考えられる。尾張藩の謡初について、『張州年中行事鈔』よりも古い時代の内容を伝えている記事である可能性が強く、また役者側か

らの記録は珍しいと思われるので、ここで翻刻・紹介させて頂く。(句読点は飯塚が私に付した。曲名は◇に入れ、本文の引用は「」に入れた。原本の注記は「」に入れた。)

一 正月三日夜、御謡初之節式  
初大引渡出候節、大鼓へ案内ノ示談致事。此時皮仕掛候ハ早シ。静ニ用意致ス。露ノ台・星ノ物台出候節、諷方何茂出座。数ノ御土器出、三献目被召上候時、年始御用御掛リノ方、「うたひませ」ト御会釈受、「四海波」諷出ス。拍子方出ル。着座シテ《老松》諷出ス迄平伏也。《老松》《東北》ノ内、御流頂戴。嶋台献上。《東北》濟、御流頂戴人数余り候へハ、小謡入、多少不定。《高砂》初リテ舞二段目ニ而押台出ル。《高砂》濟、拍子方引取、此間ニ太夫鬨斗目頂戴御次へ立、鬨斗目着出諷出ス。此所「舞ませ」と会釈有之時も無之時も有。「御国ニ而ハ表衆。江戸ニ而ハ御用人衆。」御国ニテハ出御以前ニ諷方何茂出座。出御も平伏也。

一、年始御老中御招請之節式  
初大引渡シ。御膳三汁。御初献出、鶴ノ御吸物ニテ諷方出座致ス。御三宝御老中へ持掛、御会釈有。御前へ御三宝向、御取

上被召上候テ、上座御老中へ被下。「但三宝ニ乗。通ひはこひ也。」御老中頂戴。御酒御受之所ニ而太夫「所ハ高砂」諷出ス。拍子方出ル。御出之御老中・若年寄皆々濟。又、若殿様御盃有、相濟而御銚子・土器引、若殿様被為入。御老中兩人様側江御出。御家中盃事有。殿様中座へ出御。夫々次ノ間ノ諸役人一席中不殘御盃事有。此間御囃子《高砂》《東北》濟、御盃事残り候へハ、小謡入、御盃不殘濟、御銚子・土器引。納メ台、御銚子出、御盃上座御老中頂戴、御酒御受御前御肴ヲ受ニ御立本座江御帰リ成候ノ時、小謡「君ハ千代ませ」諷。次ノ御老中御盃頂戴、御酒御受候所ニ而、「君ハ船」と祝言諷出ス。祝言濟、役者平伏引取、御老中御立跡御取持御縁家大名衆御着座ニ而諷方出座。直ニ拍子方出、御囃子初ル。御囃子ニ番濟、納メ、御上客へ御酒向候時、祝言諷出ス。右御跡御役者出座前ニ每茂饅餠出候而出座。然ル所前ニ鶴ノ御吸物出之御指図ニ而右之通也。時々御振合、承合候事。

一、上使御囃子之節  
御初献御嶋台ニ而御役者出席。上使御盃頂戴之時、小謡初リ拍子方出ル。始メ之台御盃御取上之時、祝言謡出ス。《東北》相

濟引、次祝言ノ拍子方出見合ル。

翻刻は以上の通りであるが、この謡初・年始御老中招請之節式・上使御囃子之節の特徴は、いづれも酒を伴った饗応の場であることだろう。「謡初」を儀式としてみた場合、囃子の役割は、家中の者が「島台」(飾り)を献上し、藩主からの盃を受ける「御流頂戴」をする間の時間を持たせる役割と考えられる。囃子が出るタイミングなども、「露之台」と言われる島台(飾り)が出る時を目安にしており、囃子は儀式のバックミュージックと考えて良い。年始御老中招請之節式についても同様で、囃子・謡は「盃事」の際に行われている。「君は船」は多くの謡曲にある詞だが、おそらく《養老》のキリを謡ったものである。「君は千代ませ」は思い当たらない。ぜひ御教示頂きたい。このときには藩主から老中へ盃が廻るばかりでなく、尾張藩家中の盃事も行われている。そして老中が帰った後には、藩主の親戚筋にあたる大名が着座して囃子を二番行い、御酒が出ると祝言を謡はじめる。年始に老中招請する目的も、幕府の要人を迎えることで藩の結束を固めるためと考えて良い。謡初や年始の老中招請・上使御囃子の時

には、主催者にも招かれた客にも「囃子」「謡」を聞く場という意識はなく、藩の結束を確認する儀式に参加するという意識が強かったであろう。「謡初」は、「謡」そのものを主体とする場ではなかった。今後幕府の「謡」に関する「儀礼」の記事等と比較して、尾張藩における御役者の役割を考えて行きたい。

注1 名古屋叢書三編 第八卷  
六二頁

補記 貴重な資料の閲覧・調査を

許可いただきました大倉三忠先生、仲介いただきました筧鉦一先生に心より感謝致します。本稿は平成15年度日本学術振興会研究助成基盤研究(C)「東海地域能楽資料の収集と整理」の成果の一部となります。